

ベートーヴェン第9交響曲作品史のための資料

土田 英三郎

以下は国立音楽大学音楽研究所 ベートーヴェン研究部門 主催の《第9交響曲》研究会で配布された資料に若干変更を加えたものである（第1回「成立史が提示するもの 《第9》成立の前史から初演、出版まで」2003年7月13日、および第4回「《第9》の受容史と作品解釈」2004年7月16日：配布予定）。

「作品史」とは、ある音楽作品の前史と成立史、それに作品の「成長」、つまり作品が及ぼす作用と作品から見出されたものいっさいにかかわる後史、これらを総合した全体史のことである。成立史や前史ばかりではなく後史を含めるのは、受容や作用の歴史に対して、作品とりわけ音楽作品は無垢のままではいられないからである。後の受容史や作用史が、いわば過去に遡って作品に影響を与える。音楽作品は、今日にいたるまでの全ての楽譜テキスト、演奏、解釈、研究、言説、イメージなどの総体として在る。もっと厳密に言えば、ある作品から発して、文化史的なコンテキストのなかに沈殿し、記憶され、伝承され、忘却され、思い起こされ、意味が「発見」され、新たな創造を刺激してきた結果から、私たち一人一人が汲み取ったものが、今日におけるその作品像なのである。そこには、作品に対する肯定、批判的肯定、否定、誤解や誤謬の歴史も含まれることは当然である。昨今、一つの音楽作品に関するモノグラフで後史にも力点をあいた研究が増えているのも、そうした事態が意識されているからであろう。

受容史／作用史では、作曲者とテキスト（楽譜、演奏・録音、言説等）と受容者（聴き手、読者、演奏者）の三者の動的な関係が問題となる。ベートーヴェンの第9のような文化史的意義をもった作品の場合、事は音楽の領域に留まらず、あらゆる文化活動が関わってこよう。ここでその詳細を論じる余裕はないが、暫定的な観点として、次の項目を挙げておく。これらが相互に関連しあっているのは言うまでもない。

作品の普及

楽譜の出版・流布。楽譜テキスト史（改変、校訂の歴史）

演奏、演奏史、録音史、解釈史。演奏法、指揮法、楽器への影響

批評記事 言説

創作・知的諸活動への影響

作曲

文学（小説、エッセイ、小論） 言説

美術（絵画、彫刻、デザイン）

映画

哲学、思想、諸学 言説

政治 言説

言説

音楽学研究（伝記研究、作品研究、技法研究、テキスト批判、様式分析）

批評（演奏評、作品評・分析）

エッセイ、その他の言説

これを単なるデータベースとして扱うと、永遠に完結することのない、際限のない作業となるが、音楽作品に切り込む際の一種の理念型として考えれば、格別に目新しいことでもない。全ての関連情報を集積することは不可能であるし、また無意味でもあるが、第9のような広範囲で多義的な影響力をもつ作品を対象とするとき、こうした作品史のパースペクティヴを念頭におくことは必要である。そうした作業に意味のある作品はそう多くはないけれども。

以下の表はごく選択的なもので、第9に関する音楽学の重要文献、指揮者や作曲家たちの言説、音楽以外の芸術諸分野への影響、様々な分野の学者や政治家の言説、一般愛好家の反応、関連する社会的事件など、まだ挙げるべきものは無数にある。従って、これは単に始まったばかりの作業の経過報告にすぎず、今後、論点ごとに蓄積されてゆくはずのものである。

1. 第9のクロニクル

(1) 前史

フリードリヒ・シラー「歓喜に寄す An die Freude」の出版

1786	シラー編集の雑誌『タリーア』(ライプツィヒ)に掲載
1803	『フリードリヒ・シラー詩集』(ライプツィヒ)
1804	『フリードリヒ・シラー詩集』(クロイツナーハ)
1812	『フリードリヒ・シラー全集』(シュトゥットガルト/テュービンゲン)
1818	同第2版
1790	《皇帝レーオポルト2世の即位を祝うカンタータ》WoO 88 CHOR 合唱 Heil! Heil! Heil! 万歳! 万歳! 万歳! Stürzt nieder, Millionen 跪け、百万の人々よ an dem rauchenden Altar! 香煙る祭壇の前に!
1792-93	「歓喜に寄す」への付曲の試み①(1793年1月26日付、バルトロメウス・フィツシェニヒからシャルロッテ・シラー宛ての書簡):「彼はまた、シラーの『歓喜』を、それも各節に作曲しようとしています。」
1795	歌曲《愛の答え Gegenliebe》WoO 118[→《合唱幻想曲》Op.80]
1798-99	「歓喜に寄す」への付曲の試み②:「Muß ein lieber Vater wohnen」Hess 143(Grasnick 1, 13r) [知られる限り最初の楽譜]
1802	ピアノ・ソナタ第17番 二短調 Op.31/2[器楽レチタティーヴォ]
1803 9/13	フェルディナント・リースからボンのニコラウス・ジムロック宛:〈歓喜に寄す〉を含む8曲のリート等の出版を提案。リート(Op.52/2-4,6-8,WoO117)と〈歓喜に寄す〉は「4年前に作曲」[〈歓喜に寄す〉(おそらく1798-99のHess143と関連)は消息不明]
1805/14	《フィデーリオ(レオノーレ)》Op.72 第2(3)幕フィナーレ FERNANDO フェルナンド Tyrannenstrenge sei mir fern. 暴君の厳格さは私の欲するところではない。 Es sucht der Bruder seine Brüder, 兄弟が兄弟を求めて、 Und kann er helfen, hilft er gern. 救うために喜んで来たのだ。 CHOR 合唱 Wer ein holdes Weib errungen, やさしき妻をもつ者は、 stimm in unsern Jubel ein! われらの歓呼に声を合わせよ。
1806	ゲオルク・ヨーゼフ・フォーグラール: Bayrische nationale Sinfonie[合唱付交響曲]

- 1808 《合唱幻想曲》Op.80
1824年3月10日、ライプツィヒのハインリヒ・アルベルト・プロープスト宛「私の新しい大交響曲。そのフィナーレでは独唱と合唱の声楽パートがシラーの不滅のリート〈歓喜に寄す〉の言葉で入ってきます。私の合唱付きのピアノ・ファンタジーと同じやり方ですが、はるかに大規模に処理されています。謝礼は協定貨幣 600 フローリン[ヴィーン通貨 1500 フローリン]です。」
- 1810 歌曲〈彩られたリボンで Mit einem gemalten Band〉Op.83/3
- 1811-12 「歓喜に寄す」への付曲の試み③:「Freude schöner Götterfunken Tochter／序曲を推敲」「Fürsten sind Bettler 貴人は貧者"云々のようなばらばらの文は全部を使わない」「シラーの歓喜からのばらばらの文をまとまりのある全体へ」(《命名祝日》序曲 Op.115 のスケッチ中。Grasnick 20a, 1v; BHB: Mh 59 [Petter], 42, 43)
- 1812 3つ目の交響曲のスケッチ(→「第10番」?) (BH: Mh 59 (Petter), Mh 86, Mh 95)
- 5/25 ベートーヴェンからブライトコプフ&ヘルテル宛:「3つ目の新しい交響曲」
- 1813 ペーター・フォン・ヴィンター: Schlacht-Sinfonie in C major [合唱付交響曲]
- 1815 夏/秋 スケルツォ主題? Hess 40? (Scheide: p.51)
- 1816 初? 第1楽章?、スケルツォ主題? (Weimar)
- 1816/17? 第1楽章? (Mainz)
- 1817 弦楽五重奏のための前奏曲とフーガ Hess 40(断片)

(2) 成立史

交響曲としての構想

- 1817 6/9 リースからベートーヴェン宛: ロンドンのフィルハーモニック協会より次の冬季に招聘、2つの交響曲を委嘱[交響曲第9番の作曲開始?]
- 7/9 ベートーヴェンからリース宛: 承諾の返事
- 1817 秋-18 春 第1楽章〜3楽章(スケルツォ)の構想, Hess 40 (Boldrini: pp.92-109)
- 1818 c3-4 「アダージョの聖歌 Adagio cantique——古い調[教会旋法]による交響曲の中で敬虔な歌——主なる神よ、御身を称えん——アレルヤ——それだけで独立して、あるいはフーガへの導入として。場合によっては、このやり方で2つ目の交響曲全体を性格付け、最終楽章、あるいは既にアダージョで声楽パートが入る。オーケストラのヴァイオリン等は最終楽章で十重(とえ)にする。あるいはアダージョを何らかの形で最終楽章で繰り返すが、その場合、まず声楽パートが徐々に入る——アダージョのテキストではギリシア神話、教会歌——アレグロではバッカスの祭典。」(BH: BSk 8。Op.106 のスケッチ1葉の裏にメモ)
- 夏 第1楽章 (Kraków: Mendelssohn 2: p.94)

- 12/18 リースからベートーヴェン宛: 再度ロンドンへの招聘と2つの交響曲について問い合わせ
- 1818 ピアノ・ソナタ第 29 番 変ロ長調 Op.106《ハンマークラヴィーア》[フーガ、前楽章主題の暗示]
- 1819 1/30 ベートーヴェンからリース宛: 次の冬季のロンドン行と「新しい交響曲」(複数)を約束
- 1819-23 最後のピアノ・ソナタ3曲、《ディアベツリ変奏曲》、《ミサ・ソレムニス》に従事。
- 1820 ダニエル・シュタイベルト: ピアノ協奏曲第8番 変ホ長調[合唱付]
- c2/1 会話帳(Heft 7, 17r)に記入:「我らが内にある道德の法則と、我らが上にある星の輝く天空 カント!!! リトロウ、天文台長」(『実践理性批判』からの間接引用。『ヴィーン新聞』1820年1月29日号と2月1日号に掲載された Joseph Johann Littrow[1781-1840]の論文から)
- 3-4 第9、ソナタ Op.109 等のスケッチ、「Totden Marsch Instrumente」in C-Dur。ヘンデルのオラトリオ《サウル》の葬送行進曲(会話帳 Heft 9, 3v-4v 参照:ヘンデルの行進曲に基づくオーケストラのための変奏曲、やがて声楽が加わる、という計画)(DSB: Grasnich 20b: fols.2v, 6v)
- 8 後半 フランツ・クサーヴァー・ゲバウアーの報告: ベートーヴェンが2つの交響曲を作曲中であることがプレスラウで話題になった(会話帳 2: 219)
- 1822 7/6 ベートーヴェンからリース宛: 交響曲1曲の謝礼について問い合わせ
- 7/9 ロホリッツの「書簡」:「2つの交響曲」(『総合音楽新聞』1828, no.1: cols.5-16)
- 秋 交響曲の第1楽章: 序奏(変ホ長調≡第3楽章第1主題)一主部(ハ短調)(BHB, BSk 20, fol.1r)
- 10-11 歓喜主題、歓喜に寄す、スケルツォ主題、全4楽章の構想(Artaria 201: p.111)「かなりフーガ風」[スケルツォ主題]。「交響曲4楽章。第2楽章は 2/4 拍子で、変イ長調のソナタのように。これは 6/8 拍子、長調か。第4楽章は[歓喜主題冒頭4小節]」「ドイツ風交響曲 Sinfonie allemand、合唱[『歓喜に寄す』第1〜2行、旋律は 3/8 の別ヴァージョン]が変奏のあとで入るか、あるいは変奏なしでも。交響曲の最後はトルコ音楽と合唱。」(Artaria 201: p.119)
- 第1楽章(少し後)(BN: Ms.57/3, Ms.57/1: pp.2-3)
- 「第10番」?: 序奏(変ホ長調≡第3楽章第1主題)一主部(ハ短調), 5楽章の構想(Artaria 201: pp.124f., BH: BSk 20: fol.1r, 1v.)
- 11/15 リースからベートーヴェン宛: 協会が交響曲1曲の手稿譜に 50 ポンドを提示、翌年3月の到着を希望
- 12/20 ベートーヴェンからリース宛: 1曲の交響曲を書くことを受諾
- 12 雑誌にヴィーンからの報告: ベートーヴェンが交響曲1曲を作曲中

- (『総合音楽新聞』1823,no.4: col.55)
- 1822 ピアノ・ソナタ第 31 番 変イ長調 Op.110[器楽レチタティーヴォ、フーガ、緩徐楽章とフィナーレの融合、器乐的要素と声乐的要素の融合]
- 1823 《荘厳ミサ曲》Op.123[変ホ長調和音の「神性」象徴]

本格的なスケッチと総譜化

- 1823 c2-3 主に第1楽章(BH: Mh 60 (Engelmann): pp.7-15, 19-33, (36))
- c3 第1楽章冒頭(pp.13f.)。実質的に最終ヴァージョンに接近。旧ヴァージョン(p.21)
- c4-6 第1楽章(Landsberg 8/2: pp.38-47)。第1楽章の総譜化開始
- 6-7 第2楽章(Landsberg 8/2: pp.48-54, 95-100)
- 7 第3楽章(Landsberg 8/2: pp.73-75, 101-102)
- 8-9 第3楽章(Landsberg 8/2: pp.97-102)。第2楽章総譜化
- 9-10 第3楽章(Landsberg 8/2: pp.63-70, 55-62)
- 10-12 第3, 第4楽章(Kraków: Autograph 8/1)。第3楽章総譜化
- 12- 24, 1-2 第4楽章(Kraków: Autograph 8/2)
- 「finale instrumentale」等 Op.132(1825)風
- (Autograph 8/2: fols.8r, 36v, 37r, GdM: A50)
- 1824 1 第4楽章(Landsberg 8/2, Landsberg 12, GdM: A 50 等)
- 1824 1- 「第 10 番」(A 50: p.12)
- c2 第4楽章(Artaria 205/4: pp.37-44)
- c2- 第4楽章完成(自筆総譜Aの暫定的完成))

(3)初演と初期の演奏、批評

- 1824 2 「2月嘆願書」(1824, 4 にヴィーンの複数の雑誌に掲載される)
- 2/25- 幾つかの出版社に作品の売り込みを開始
- 2/26 会話帳:「2月嘆願書」がベートーヴェンのもとに届く
- 3- 筆写総譜C*(印刷用原稿)
- 3/20-4/1 会話帳:シンドラーがコントラバスのレチタティーヴォについて聞く。[シンドラーによる捏造]
- 4/18 ペテルスブルクで《荘厳ミサ曲》全曲初演
- c4/20 初演に使用されたパート譜(AP, PX*, CP)
- 5/2 最初のオーケストラ総練習、声楽のパート別練習
- 5/3 合唱練習、オケのアマチュア・メンバーの練習

5/4	劇場合唱団の練習
5/5	劇場オケと合唱団の総練習。プログラム印刷の手配
5/6	2回目の総練習。歌詞印刷の手配(500部)
5/7	初演 (ヴィーン、ケルトナートーア劇場) (1) ウムラウフの総指揮、シュパンツィヒのコンマス、劇場のオケと合唱、楽友協会(アマチュア)、弦:12-12-8-10-6?/4?、倍管、合唱 80-96?(女声は少年合唱)。 曲目: 献堂式序曲 Op.124、《莊嚴ミサ曲》よりキリエ、クレド、アニウス・デイ、《第9》
5/12	初演評『ヴィーン総合音楽新聞』(フリードリヒ・アウグスト・カンネ)
5/13	初演評『ヴィーン総合演劇新聞』(アードルフ・ボイエレル)
?	言及『ツェツィーリア』(ゴットフリート・ヴェーバー)
5/23	再演 (ヴィーン、大レドゥーテンザール) (2) 弦:14-14-10-12-8? 曲目: 献堂式序曲、《莊嚴ミサ曲》よりキリエ、三重唱《震えおののけ、邪悪な者ども》Op.116(誤って「新作」として)、ロッシーニ《タンクレディ》からく大なる不安と苦しみ(の後で)(ヴィーンで人気のテノール、ダーフィットのために4度高めて)、第9
6/3	再演評『ヴィーン総合演劇新聞』(Anon.)
6/5, 7	再演評『ヴィーン総合音楽新聞』(カンネ)
7/1	初演評『総合音楽新聞』(ライブツィヒ)
7/8	再演評『総合音楽新聞』(ライブツィヒ)
7/19	ショット社から出版の最終的受諾
9/29	ヨーハン・アンドレーアス・シュトライヒャーからベートーヴェン宛: チェルニーが2、4手編曲を引き受け、スコア送付を依頼してきたこと。
後葉	自筆総譜Aの一部(4小節)とメモJ
12/20	ロンドンのチャールズ・ニートからベートーヴェン宛: フィルハーモニック協会が再度招聘、交響曲と協奏曲1曲ずつを委嘱、筆写総譜B*のロンドン到着
1824, 12- 1825, 1 初	PX の訂正リストK*
1824-25	弦楽四重奏曲第 12 番 変ホ長調 Op.127
1825	弦楽四重奏曲第 15 番 イ短調 Op.132
1825 1/15	ベートーヴェン(甥カール筆)からニート宛: 承諾と旅費増額の要請、第2楽章の反復について指示
1/16	印刷用原稿 C* (最終稿)、《莊嚴ミサ曲》をショットに送付
1/20	L*(Kのコピー、Bの正確さ確認用、仏語)
1/27	ベートーヴェン(甥カール筆)からニート宛: 直ちに交響曲に取りかかること、L* を同封
c3/12	アーヘン用の筆写総譜D1*(I-III 楽章)、パート譜 DP(IV 楽章。Kfg なし。アーヘン

- でスコア化D2。消失)をアーヘンに送付
- 3/19 ショット宛:ロンドン側の18カ月独占権について念押し
- 3/21 **ロンドン初演** (1)
 フィルハーモニック協会、サー・ジョージ・スマート指揮、フェルディナント・クラマーのコンマス。合唱は聖ポール大聖堂、ウェストミンスター・アビー、チャペル・ロイヤル等の連合、ロンドン・オペラ・ハウスの歌手たち、イタリア語、1時間5分
 曲目:第1部 ハイドン交響曲、モーツァルト弦楽四重奏曲、レイハ木管五重奏曲、ケルビーニ序曲、モーツァルトとヘンデルの声楽曲。第2部《第9》
 [演奏会広告では "New Grand Characteristic Sinfonia" と銘打たれる。演奏の難しさ、批判的批評のため、同協会は1837年まで演奏せず]
- 3/23 D1*、DPがアーヘン着
- 3 ロンドン試演評『ハルモニコン』
- 4 ロンドン初演評『ハルモニコン』:1時間5分は長すぎる。全く新しい特徴は多いが、フィナーレは異質で、歓喜の歌と交響曲の関係が不明。反復や合唱全部を削除して再演を希望。
- 4/1 **フランクフルト初演** カール・グーア指揮。第3楽章省略、演奏会冒頭に1〜2楽章、最後にフィナーレ。おそらくCを使用
- ? フランクフルト初演評『総合音楽新聞』(ライブツィヒ)
- (-)4/9 アーヘンにヴォーカル・スコア DC*を送付
- 4/20 Opp.123-125 の初版楽譜の予約告知『ツェツィーリア』情報欄(ショット社の雑誌)。9/27に10月末の予約期限を12月末まで延長、その後さらに1826年復活祭まで延長
- 5/23 **アーヘン初演**(第2回ニーダーライン音楽祭)
 フェルディナント・リース指揮。Kfgなし、第2楽章省略、第3楽章短縮、低弦レチタティーヴォは独奏者(パッセージによっては独奏 Kbsか)、バリトン・レチタティーヴォは一部歌詞変更
 曲目:《第9》、モーツァルト《悔悟するダヴィデ》抜粋、《魔笛》序曲、《オリーブ山上のキリスト》
- 5/26 アーヘン初演評『Rheinische Flora』
- ? アーヘン初演評『総合音楽新聞』(ライブツィヒ)
- ? アーヘン初演評『ツェツィーリア』
- 11/25 ベートーヴェンからショット宛:第9の献呈先は未決(以前はリースが候補)、さらに3カ月の出版延期を要請
- 1825-26 弦楽四重奏曲第13番 変口長調 Op.130、大フーガ Op.133、第14番 嬰ハ短調 Op.131

1826		弦楽四重奏曲第 16 番 ヘ長調 Op.135
1826	1/28	ベートーヴェンからショット宛: 第9を露帝アレクサンドルに献呈することを伝える[ただし皇帝は既に 1825, 12/1 没]
	2 初-	オーストリア公使を通じ、プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世に第9献呈の許可を求める請願を開始。
	3/2	ライブツィヒ初演 (ゲヴァントハウス)(1) I-III 楽章:ハインリヒ・アウグスト・マッテーイ、IV:ヨーハン・フィリップ・クリスティアン・シュルツ指揮
	3/30	ライブツィヒ再演 (2)
	7/26	ベートーヴェンからショット宛: プロイセン国王が第9の献呈譜を受け取った知らせが届くまで、初版の出版を延期するよう要請
	7/29	ベートーヴェンからショット宛: 近々第9のメロノーム記号を送付することを約束
	7	第9初版譜の見本が既にブライトコプフ&ヘルテル社に(Lenz IV: 456)
	8/28	総譜E、パート譜P、ピアノ・ヴォーカル・スコアVの初版刊行(ショット社の業務簿による。『ツェツィーリア』8月号情報欄にも出版広告) ベートーヴェンは校正者としてゴットフリート・ヴェーバーを推薦したが、結局フェルディナント・ケスラーが担当。第1刷にのみ予約者リストを挿入(Opp.123-125)、フロント・カバーに「PARTITION」の表示
	?	ピアノ・ヴォーカル・スコアの批評『ベルリン総合音楽新聞』(アードルフ・ベルンハルト・マルクス)
	9/16	ベートーヴェンからショット宛: 昨日、第9と Op.127 の印刷譜を受け取ったことの報告、第2楽章反復に関する注文
	c9/27	甥カールが会話帳にメロノーム記号一覧を書き取り、献呈譜F*にも記入
	9/29	ベートーヴェンからショット宛: メロノーム記号の送付を約束、第2楽章トリオ後の忘れられた D.S.記号について指摘
	9 末	筆写総譜F*(プロイセン王への献呈譜。PX から作成、メロノーム記号付き)をプロイセン王立図書館司書 S.H.シュピカーに渡す
	10/13	ベートーヴェン(甥カール筆)からショットにメロノーム記号一覧を送付
	10/19	ライブツィヒ再演 (3)
	11/13	ベルリンで 17 歳のメンデルスゾーンが指揮者のメーザーに依頼されて、選ばれた音楽家たちの前でピアノで演奏(『Vossische Zeitung』)。[難解な曲にあらかじめ少しでも親しんでもらおうと、指揮者のメーザーが手配]
	11/22	第9の作品評『ベルリン総合音楽新聞』(A.B.マルクス)→1827 年にフランスの『ルヴェ・ミュージカル』誌にも翻訳掲載
	11/26	第9献呈に対するプロイセン王名義の礼状(のちに赤い石付きの金の指環が贈られ

- る)
- 11/27 **ベルリン初演**(ヤゴルシエス・ザール)、カール・メーザー指揮、おそらく初版を使用
(献呈譜の記載情報も参考にしたか)[メーザーはベルリン初演後8回演奏(うち4回
ではIV 楽章を省略:1838,4/18; 1839, 2-3; 1841, 4/5; 1842 春)]
- 12 『ツェツィーリア』にメトロノーム記号一覧が掲載される
- 12/20 **ブレーメン初演**
- 12/27 ライプツィヒ初演評『総合音楽新聞』
- 1827 このシーズンに**マクデブルクで初演**
- 1/27 ベートーヴェンからショット宛: 初版の間違い訂正、印刷譜への不満
- 2/20 **シュテットイン初演** カール・レーヴェ指揮、メンデルスゾーンが第1ヴァイオリン・パ
ートを弾く
- 3/9 **プラーハ初演**
- 3/14 シュテットイン初演評『ベルリン総合音楽新聞』
- 3/15 **ウィーン再演** (3) コンセール・スピリチュエル
- 3/18 ベートーヴェン(シンドラー筆)からモシェレス宛:新しい交響曲、(BACH)序曲のスケ
ッチ。『ツェツィーリア』のメトロノーム一覧のコピーを添付
- 3/24 シンドラーからモシェレス宛:「第10 交響曲」が孵化しつつあること
- 3/26 ベートーヴェン没

(4)後史 (楽譜と演奏の例)

- 1827 初版総譜Eの増刷(メトロノーム記号付き)
- 4 以後 E の増刷(誤植訂正の1シート付き)
- 4/19 ウィーンで第1楽章 コンセール・スピリチュエル
- 5/30 報告『総合音楽新聞』(ライプツィヒ)
- 12/16 ウィーンで第1、2楽章(大レドゥーテン・ザール) 楽友協会演奏会、シュミーデルの
指揮、フェルディナント・ピーリンガーのコンマス
- ? 報告『総合音楽新聞』(ライプツィヒ)
- 1828 作品評『ツェツィーリア』(ヨーゼフ・フレーリヒ、ゲオルク・クリストフ・グロースハイム)
作品評『ツェツィーリア』(イグナーツ・フォン・ザイフリート)
- 3 コメント『ハルモニコン』6号(Anon.)
- ? コメント『ルヴュ・ミュージカル』3号(フランソワ＝ジョゼフ・フェティス)
演奏評『総合音楽新聞』(ライプツィヒ)
- 1829 c5-6 4手ピアノ編曲版(C.チェルニー編)、ライプツィヒ:プロープスト(ショットも共同販売)。
声楽パート R, R'

	10	チェルニーによるベートーヴェン交響曲の編曲の完結が告知される(『総合音楽新聞』情報欄)
c1830		手稿パート譜 PY(ウィーン楽友協会所蔵の P の欠損分、補充分)
1830,	4/14	ライプツィヒで演奏(ゲヴァントハウス)
	4/26	ロンドンで演奏(キングズ劇場コンサート) チャールズ・ニート指揮
	?	批評『ハルモニコン』: 聴衆の好意的反応をしがしが認める シュテッティンで再演 カール・レーヴェ指揮
1830s	初	シューマンによるピアノ編曲(I楽章: 1-249)(手稿譜)
1831,	3/27	パリ初演 パリ音楽院演奏協会、フランソワ＝アントワーヌ・アブネック指揮。 プログラム冒頭に前半2楽章、最後に後半。初版使用。オケ 86、合唱 79
1832	秋	ウィーンで第1、第2楽章を演奏
1831	-4/3	ヴァーグナーによる2手ピアノ編曲(1830-)
1834		このシーズンに デュッサウ初演
1834/35		このシーズンに ハレ初演
1835	2	ミュンヘン初演
	4/26	パリで第2楽章
	6/20	ロンドンでフィナーレ(ハノーヴァー・スクエア・ルームズ) チャールズ・ルーカス指揮、 ロイヤル・アカデミー・オヴ・ミュージックの学生と教授。新訳
	6/22	批評『タイムズ』: 好評を報告、フィルハーモニック協会にも再演を呼びかけ
1835/36		このシーズンに フライブルク初演
1836-		4手ピアノ編曲版(チェルニー編)の第2版、ライプツィヒ: キストナー
1836	3/7	ペテルスブルク初演 フィルハーモニック協会
	3/13	ライプツィヒ(ゲヴァントハウス) メンデルスゾーンの初指揮
	3/24	ロンドン(キングズ劇場) ヘンリ・フォーブズ指揮、Societ Armonica
	4/9	ハノーヴァー初演
	4/15	ロンドン、全曲 Ch. ルーカス指揮、ロイヤル・アカデミー・オヴ・ミュージック
	4/16	批評『タイムズ』
	5/23	デュッセルドルフ初演 (第18回ニーダーライン音楽祭)、メンデルスゾーン指揮[メン デルスゾーン《聖パウロ》初演の翌日]
1837	4/17	ロンドン フィルハーモニック協会で再演 モシェレス指揮、ローダーがコンマス
	4/21	批評『Musical World』: 大喝采を伝える
1838		ライプツィヒ(ゲヴァントハウス) メンデルスゾーン指揮
	11/7	ドレスデン初演
	?	論評『ル・タン』(Chrétien Urhan)、『Musical World』(Henry John Gauntlett)、

- 『Revue et Gazette musicale』(ベルリオーズによる連載)
- c1838 ピアノ四重奏編曲版(Pf, Fl, Vn, Vc。J.N.フンメル編)、シヨット
2手ピアノ編曲版(カルクブレンナー編)、シヨット
- 1839 4/21 パリで第2、第4楽章
- 1839/40 このシーズンに**プレスラウ初演**
- c1840? Kfg の手稿/パート譜 PZ(E から)
- 1840 このシーズンに**オルデンブルク初演** フィナーレ省略
- 1841 ライプツィヒ(ゲヴァントハウス) メンデルスゾーン指揮
- 1841 2/15 ロンドンでフィナーレ
- 5/23 **ケルン初演**(第23回ライン音楽祭) コンラード・クロイツァー指揮、700人
- 1843 ライプツィヒ(ゲヴァントハウス)、メンデルスゾーン指揮
- 3 ヴィーン ニコライ指揮、ヴィーン・フィル(2回)[ヴィーンでは初演以来10回目]
- 1843 7/10 ロンドンで第2、第4楽章
- 1845 春 デュッセルドルフ(音楽祭)
- 8/10 **ボン初演**(エルンスト・ヘーネルのベートーヴェン記念碑除幕式) ルーイ・シュポール指揮[かなり政治的なセレモニー]
- 8/11 **ハンブルク初演**(ベートーヴェン祭)
- ? 総譜、パリ:Launer
- 1846 ライプツィヒ(ゲヴァントハウス)、メンデルスゾーン指揮
ヴィーン ニコライ指揮、ヴィーン・フィル
- 4/5 ドレスデン(旧歌劇場) ヴァーグナー指揮(1)
ヴァーグナー:「ベートーヴェン第9交響曲の上演に寄せて」「第9プログラム・ノート」
- 5/20 **ニューヨーク初演**(アメリカ初演。キャッスル・ガーデン) フィルハーモニック協会コンサート、ジョージ・ローダー指揮、C.B.Burckhardt による英訳
- 1849 コントラバス・レチタティーヴォの奏法案『音楽新報』(アウグスト・ミュラー)
- 4/1 ドレスデン ヴァーグナー指揮(3)。5月にドレスデン蜂起
- c1850? 声楽パートのリプリント(P')
- 1853 カールスルーエ リスト指揮
- 1853 2台ピアノ編曲版(リスト編、1851編曲)、シヨット(PN 11890)
- 1853- 総譜、パリ:Girod(Launer 1845の再版)
- 1857 **フランクフルト全曲初演**
- 1864 旧全集 Br1、B&H
4手ピアノ編曲版(Watts 編)、パリ:G.Fluxland-Durand-Schoneberger
- 1865 2手ピアノ編曲版(リスト編、1863-64編曲)、B&H

- 1867 総譜、ショット新版 S, S' (旧全集版に基づく)
- 1868 フィナーレのピアノ・ヴォーカル・スコア (独仏語。フリードリヒ・ルックス編)、ショット
- 1869 総譜 (クリュザンダー校訂)、ライブツヒ: リーター・ビーダーマン (ショットも共同販売)
- 1870 ヴァーグナー: 『ベートーヴェン』
- 1870- 4手ピアノ編曲版 (Watts 編)、Flaxland-etc. 1864 の再版
- 1872, 5/22 **パイロイト** (辺境伯劇場) 祝祭劇場定礎式、ヴァーグナー指揮、ニキシユ参加
- c1872 総譜 Pe1、ペーターズ
- 1873 ヴァーグナー: 「ベートーヴェン第9交響曲の演奏について」
- 1876/77 ピアノ三重奏編曲版 (4手 Pf, Vn, Vc. C. ブルクハルト編)、B&H
- 1878 **イタリア初演**
- 1880 **フィレンツェ初演** Jefe Sbolci 指揮
- 1882 4/2 **マドリード初演** Mariano Vázquez 指揮
- 1886 2/13 プラーハ (R. ヴァーグナー祭) カール・ムック指揮
- 2/21 プラーハ マーラー指揮(1) [ムックの代役。ナショナリズム色の濃い催し]
- 1895 3/11 ハンブルク マーラー指揮(2)
- 第9のマーラー・ヴァージョンの一つ
- 1899 6/4 プラーハ マーラー指揮(3)
- 1900 2/18 ヴィーン マーラー指揮(4)
- 2/22 ヴィーン マーラー指揮(5)
- 1901 1/27 ヴィーン マーラー指揮(6)
- 5/1 ドビュッシーの第9評 (『La revue blanche』)
- 1902 4/15 第 14 回ヴィーン分離派展開幕。マックス・クリンガーのベートーヴェン像、グスタフ・クリムトの『ベートーヴェン・フリース』の展示と、マーラーによる第9編曲 ("Ihr stürzt nieder" の6トロンボーン用編曲) の演奏 マーラー指揮(7)、宮廷歌劇場管弦楽団員
- 1905 **ナポリ初演** (音楽院)
- 5/22 ストラスブール (アルザス=ロレーヌ音楽祭) マーラー指揮(8)
- 1907 ヴァインガルトナー『ベートーヴェン交響曲演奏への提言』
- 1909 4/6 ニュー・ヨーク (カーネギー・ホール) マーラー指揮(9)
- 1910 4/1 ニュー・ヨーク (カーネギー・ホール) マーラー指揮(10)
- 4/2 ニュー・ヨーク (カーネギー・ホール) マーラー指揮(11)
- 1910 **ベオグラード初演** Isidor Bajic (1878-1915) 指揮
- 1917 6/10 **フィナーレ? 日本初演** (徳島県坂東収容所) ドイツ人捕虜
- 1918 6/1 **全曲日本初演** (徳島県坂東収容所) ドイツ人捕虜

	7/9	第1、3、2楽章(福岡県久留米収容所) ドイツ人捕虜
1918	12/31	ニキシュ(ライプツィヒ・ゲヴァントハウス)がジルヴェスターに第9演奏の習慣を開始
1919	12/3	第2、3楽章(久留米高等女学校)
	12/5	全曲(久留米高等女学校)
1924	1/26	フィナーレ(九州帝国大学フィルハーモニー会)
	11/29	東京音楽学校奏楽堂 グスタフ・クローン指揮、東京音楽学校
	11/30	同
1933		バイロイト R. シュトラウス指揮[ナチス時代最初のバイロイト音楽祭。第9が同音楽祭で初めて開幕を飾る]
1937	4/19	ベルリン(ヒットラー誕生日) フルトヴェングラー指揮、ベルリン・フィル
1942	4/19	ベルリン(ヒットラー誕生日) フルトヴェングラー指揮、ベルリン・フィル[映像あり]
1951	7/29	バイロイト フルトヴェングラー指揮[戦後の第1回バイロイト音楽祭開幕]
1964	10	〈歓喜の歌〉が東京オリンピックで東西ドイツの合同選手団の臨時国歌として使用される
1972	1	〈歓喜の歌〉のカラヤンによる編曲がCE(ヨーロッパ会議)の国歌に相当する歌として承認される[多数の反対意見あり]
1974-80		旧南ローデシア(現ジンバブエ)の国歌として使用される[全体主義]
1989		長野オリンピック衛星中継同時演奏 モントリオール、モスクワ、ジュネーヴ、サン・フランシスコ
1989	12/25	ベルリン(シャウシュピール・ハウス) パーンスタイン指揮 東西ドイツ、米英仏ソ連(かつての連合国)の音楽家による混成。「Freude(歓び)」が「Freiheit(自由)」に置き換えられる
2000	5/7	マウトハウゼン強制収容所跡(初演 177 年) サイモン・ラトル指揮、ウィーン・フィル
2001	9/4	ユネスコが第9自筆総譜を Memory of the World に指定
2003	7/10	〈歓喜の歌〉がEUの国歌に相当する歌として憲法草案に盛り込まれる

2. 第9交響曲の主な楽譜(手稿譜とエディション)

凡例

ベルリン: プロイセン文化財ベルリン国立図書館

ボン: ベートーヴェン・ハウス

B&H: ブライトコプフ・ウント・ヘルテル

PN: プレート番号(または出版番号)

資料を表すアルファベット記号(A, AP, PX, PY, PZ, B, C, CP, D, DC, DP, F, J, K, L, E, V, P, R, Br1, S, Br2,

Pe1, Pe2, EE1, EE2, Ph)はジョナサン・デル・マーのペーレンライター版校訂報告に基づく。*は自筆資料以外でベートーヴェン自筆の記入を含むもの。

下線: 国立音楽大学所蔵

- 1824 c2- 自筆総譜A(ベルリン、ボン、パリの国立図書館)
-3- 筆写総譜C*(印刷用原稿:元ショット社蔵、2003 サザビーズで競売、個人蔵)
c4/20 初演に使用されたパート譜(AP:ベルリン、ボン;PX*:ウィーン楽友協会;CP:マインツのショット社)
後葉 自筆総譜Aの一部(4小節)とメモJ(ベルリン)
-12 筆写総譜B*(大英図書館)
- 1824, 12- 1825, 1 初 PX の訂正リストK*(1988 サザビーズで競売、個人蔵)
- 1825 -1/16 筆写総譜C*(最終稿)
1/20 L*(Kのコピー、Bの正確さ確認用、仏語。ボン)
-c3/12 アーヘン用の筆写総譜D1*(I-III 楽章。アーヘン市立アルヒーフ)、パート譜 DP(IV 楽章。Kfg なし。アーヘンでスコア化D2。消失)
-4/9 アーヘン用のヴォーカル・スコア DC*(アーヘン市立アルヒーフ)
- 1826 8/28 初版 総譜E(PN 2322)、パート譜P(PN 2321)、ピアノ・ヴォーカル・スコアV(PN 2539)、マインツ:ショット
c9/27 甥カールが会話帳にメトロノーム記号一覧を書き取り、献呈譜F*にも記入
-9 末 筆写総譜F*(プロイセン王への献呈譜。PX から作成、メトロノーム記号付き。ベルリン)
10/13 ベートーヴェン(甥カール筆)からショットにメトロノーム記号一覧を送付
12 『ツェツィーリア』にメトロノーム記号一覧が掲載される
- 1827 初版総譜Eの増刷(メトロノーム記号付き)
4 以後 E の増刷(誤植訂正の1シート付き)
- 1829 c5-6 4手ピアノ編曲版(C.チェルニー編)、ライプツィヒ:プロープスト(PN 360)(ショットも共同販売(PN 3164))。声楽パート R, R'
- c1830 手稿パート譜 PY(ウィーン楽友協会所蔵の P の欠損分、補充分。ウィーン楽友協会)
- 1830s 初 シューマンによるピアノ編曲(I楽章:1-249)(手稿譜。ベルリン)
- 1831 -4/3 ヴァーグナーによる2手ピアノ編曲(手稿譜)
- 1836- 4手ピアノ編曲版(チェルニー編)の第2版、ライプツィヒ:キストナー(PN 360)
c1838 ピアノ四重奏編曲版(Pf, Fl, Vn, Vc。J.N.フンメル編)、ショット(PN 5370)

- 2手ピアノ編曲版(カルクブレンナー編)、ショット(PN 5370)
- c1840? Kfg の手稿/パート譜 PZ(E から。ウィーン楽友協会)
- 1845 総譜、パリ:Launer
- c1850? 初版声楽パートのリプリントP', ショット(PN 2321)
- 1853 2台ピアノ編曲版(リスト編, 1851 編曲)、ショット(PN 11890)
- 1853- 同、増刷
- 総譜、パリ:Girod(PN Ve.L.3579) (Launer 1845 の再版)
- 1864 旧全集 Br1、B&H(PN B.9) [以後ベーレンライター版 1996 までではほとんどのエディションの基盤]
- 4手ピアノ編曲版(Watts 編)、パリ:G.Flaxland-Durand-Schoenewerk(PN G.F.701)
- 1865 2手ピアノ編曲版(リスト編、1863-64 編曲)、B&H(PN 10676)
- 1865- 同、増刷
- 1867 総譜、ショット新版 S, S'(PN 2322) (旧全集版に基づく)
- 1868? 同、増刷
- 1868 フィナーレのピアノ・ヴォーカル・スコア(独仏語。フリードリヒ・ルックス編)、ショット(PN 2539)
- 1869 総譜(クリュザンダー校訂)、ライプツィヒ:リーター・ビーダーマン(PN 608) (ショットも共同販売)
- 1869- 同、増刷
- 1870- 4手ピアノ編曲版(Watts 編、Flaxland-etc. 1864 の再版)
- 1872 総譜(クリュザンダー校訂)、ライプツィヒ:リーター・ビーダーマン版 1869 の増刷
[ヴァーグナーがバイロイト祝祭劇場定礎式で使用。ヴァーグナーによる改変をエメリヒ・カストナーが記入]
- c1872 総譜 Pe1 (PN 5450)、ペータース
- 1876/77 ピアノ三重奏編曲版(4手 Pf, Vn, Vc。C. ブルクハルト編)、B&H(PN 14340)
- 1876/77- 同、増刷
- 1895 -3/11 マーラー・ヴァージョンの一つ(ハンブルク上演用。サウザンプトン大学)[変木調 Cl、舞台裏オーケストラ等を使用]
- 1902 総譜 Pe2(PN 8814)、ペータース
- ? 総譜 Pe、ニュー・ヨーク:ペータース
- ? 研究用総譜 EE1、オイレンブルク(W. アルトマン序文)
- 1910 マーラー・ヴァージョンの一つ(ウィーン、ニュー・ヨーク上演用。ウィーン市州立図書館)
- 1916 ヴォーカル・スコア(Richard Hofmann)、ペータース

- 1923 研究用総譜 Ph、ユニヴェルザールのフィルハルモニア
- 1924 自筆総譜のファクシミリ版、ライブツィヒ:キストナー&ジューゲル
- 1927 ヴォーカル・スコア(乙骨三郎訳詞)、シンキョウ社
- c1930 総譜 Br1 の改訂版、B&H
- c1934 研究用総譜 EE2、オイレンブルク(M. ウンガー校訂)
- 1944 ヴォーカル・スコア(Richard Hofmann)、フランクフルト:ペーターズ(c1916)
- 1948 研究用総譜(堀内敬三解説、訳詞)、音楽之友社
- 1952 研究用総譜、Heugel
- 1956 ヴォーカル・スコア(堀内敬三訳詞)、音楽之友社
- 195_ パート譜、B&H
- 1966 研究用総譜 Br2、ヴィースバーデン: B&H
 2手ピアノ編曲版 1865(リスト編)(リスト旧全集のリプリント)
ヴォーカル・スコア、カワイ楽譜
- 1970 研究用総譜 Br2 の日本版、音楽之友社
- 1970? 研究用総譜(諸井三郎解説)、全音
- 1974? 研究用総譜、ユニヴェルザールのフィルハルモニア
- 1975 自筆総譜のファクシミリ版、ライブツィヒ:ペーターズ
- 1977 ピアノ編曲版(E. Pozzoli 編、独伊語)、ミラーノ:リコルディ
- 1979 研究用総譜(D. レクスロート解説)、ゴルトマン/ショット
- 1982 研究用総譜(ダルヴァシュ・ガポール校訂)、ブダペシュト: Editio Musica
- 1983 研究用総譜(イーゴリ・マルケヴィッチ校訂)、ライブツィヒ:ペーターズ
- 1984 III のパーカッション編曲(H.Farberman 編)、New York: Associated Music
- 1985 ヴォーカル・スコア、音楽之友社
- 1987 ヴォーカル・スコア(なかにし礼詩)、東京音楽社
ヴォーカル・スコア、玉川大学出版部
- 1988 研究用総譜、ゴルトマン/ショットの再版
- 1989 総譜、ニュー・ヨーク:ドーヴァー(Litolff 18--? のリプリント)
ヴァーグナーによる2手ピアノ編曲(ヴァーグナー新全集)
ヴォーカル・スコア、カワイ楽譜
- 1990 ヴォーカル・スコア、「小澤征爾 The great concert」)、角川書店/音楽之友社
- 1993 2手ピアノ編曲版(リスト編)1865(リスト新全集)
- 1995 編曲総譜(遠藤蓉子編)「子供のための第九」、サーベル社

- 1996 総譜(ジョナサン・デル・マー校訂)、同校訂報告、同ヴォーカル・スコア(Wernhard)、
ベーレンライター
- 1999 研究用総譜(デル・マー校訂)、ベーレンライター
- 2003 研究用総譜(土田英三郎解説)、音楽之友社(Br2)
ヴォーカル・スコア、カワイ楽譜
- 19__? 2台ピアノ編曲版(オットー・ジンガー編)、ライブツィヒ:ペーターズ
旧全集版総譜の研究用リプリント、Belwin Mills、Kalmus
研究用総譜(溝部国光解説)、日本楽譜出版社
ヴォーカル・スコア、出版社不明

3. 後世の創作活動への影響(例)

- 1824 ベートーヴェン:バガテル 口短調 Op.126/4[旋律的輪郭]
- 1825 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第 15 番 イ短調 Op.132[レチタティーヴォ、フィナー
レ主題:1823-24 のスケッチ「finale instrumentale」参照]
ベートーヴェン:カノン〈医師は死に対して門をとざす、音符もまた苦難から助けてく
れる Doktor sperrt das Thor dem Todt〉WoO 189[旋律的輪郭]
- 1826 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第 13 番 変ロ長調 Op.130[カヴァティーナ等のレチ
タティーヴォ風楽想、天国的楽想]
- 1825 シューベルト:交響曲第8番 ハ長調 D 944《ザ・グレート》[第9へのオマージュ]
- 1830 ベルリオーズ:《幻想交響曲》Op.14[歓喜主題のネガとしての〈怒りの日〉、2主題の
対位法的結合]
- 1831 メンデルスゾーン:交響曲第5番《宗教改革》Op.107[声楽的要素、前楽章主題の否
定]
- 1834 ベルリオーズ:交響曲《イタリアのハロルド》Op.16[アンチ・ヒーロー、交響曲と協奏曲
の融合、前楽章主題の回想]
- 1835 ヴィーンのハースリンガー社による新作交響曲コンテスト(エントリー 57 曲、フラン
ツ・ラハナー優勝)
- 1835 オットー・ニコライ:交響曲 二長調(1845 改)[前楽章の引用]
- 1837 7 ヴォルフガング・ローベルト・グリーペンケルル(1810~68):「音楽祭あるいはペー
ーヴェニアーナ Das Musikfest, oder Die Beethovener」『音楽新報』に連載;1838 単
行本化; 1841 増補版(マイヤーベアーによる序文)[シラーの『歓喜に寄す』がもと
は「自由に寄す」だったという伝説のきっかけか]

- 1839 ベルリオーズ: 劇的交響曲《ロメオとジュリエット》Op.17[交響曲とオペラの融合]
- 1840 メンデルスゾーン: 交響曲第2番《賛美の歌》Op.52(交響曲カンタータ)[交響曲とカンタータの融合]
ヴァーグナー:《ファウスト序曲》[第9体験から刺激?]
- 1841 ヴァーグナー:《さまよえるオランダ人》序曲[冒頭空5度]
- 1846-47 ヴァーグナー: 交響曲のスケッチ
- 1854 ヴァーグナー:《ラインの黄金》前奏[冒頭空5度]
- 1857, 61 リスト:《ファウスト交響曲》(第2稿)[音楽、交響曲と交響詩の融合]
- 1858 ブラームス: ピアノ協奏曲第1番 二短調 Op.15[モニュメンタルな交響曲様式、第9研究の成果を反映(主題、構造に二短調(二音)と変口長調(変口音)の関係)]
- 1865 チャイコフスキー: カンタータ《歡喜に寄す K radosti》(出版 1960)[卒業作品]
- 1868 ブラームス:《ドイツ・レクイエム》Op.45[引用]
- 1869 ブルックナー: 交響曲「0」 二短調[調、開始部]
- 1870 ヴァーグナー:『ベートーヴェン』
- 1873 ブルックナー: 交響曲第3番 二短調(1889 まで改訂)[調、開始部]
ヴァーグナー:「ベートーヴェン第9交響曲の演奏について」
- 1876 **ブラームス: 交響曲第1番 八短調 Op.68**[第9の軌道修正?、第9の引喩、「誤読」?]
ノッテボームによる第9のスケッチ研究[「二つの交響曲」の神話]
- 1878 ブルックナー: 交響曲第5番 変口長調[前楽章の否定、二重フーガ]
ブルックナー: ベートーヴェン交響曲第3、第9番の形式研究
- 1880 ブラームス:《悲劇的序曲》二短調 Op.81[冒頭モットー]
ドヴォルジャーク: 交響曲第6番 二長調 Op.60[音形、引喩]
- c1882 マスカーニ:《Alla gioia》(未刊)
- 1885 ブラームス: 交響曲第4番 ホ短調 Op.98[変奏]
- 1887 ブルックナー: 交響曲第8番 八短調(1890 まで改訂)[楽章構成]
- 1888 ヴォルフ:《忠告いたそう Zur Warnung》(メーリケ歌曲集 49)
- 1888 マーラー: 交響曲第1番 二短調[開始部]
- 1893 ドヴォルジャーク: 交響曲第9番《新世界》ホ短調 Op.95[音形、主題の回想]
- 1894 ブルックナー: 交響曲第9番 二短調(未完)[調、開始部、和声]
マーラー: 交響曲第2番《復活》八短調/変ホ長調[音楽、構想]
- 1896 マーラー: 交響曲第3番 二短調/二長調[音楽]
- 1900 マーラー: 交響曲第4番 ト長調/ホ長調[音楽]
- 1902 クリムト:『ベートーヴェン・フリーズ』、クリンガー『ベートーヴェン像』

- 1907 マーラー:交響曲第8番 変ホ長調[声楽、賛歌]
- 1908 アイヴズ:交響曲第1番(c1898-c1901, c1907-8)[スケルツォ]
- 1919-27 ハヴァーガル・ブライアン(1876-1972):交響曲第1番《ゴシック交響曲》[合唱]
- 1945 シュスタコーヴィチ:交響曲第9番 ホ長調 Op.70[器楽レチタティーヴォ]
- 1947 トーマス・マン:『ファウスト博士 Doktor Faustus』[作曲家アドリアン・レーヴァーキューンが第9を「善であり高貴であるにもかかわらず、在ってはならない」ものとして「撤回」を主張]
- 1962 アンソニー・バージェス:『時計仕掛けのオレンジ』
- 1965 アレクサンダル・オブラードヴィッチ:《エピタフH Epitaf H》[十二音技法的手法をベートーヴェンの第9交響曲からの引用と結合]
- 1968-69 ペリオ:《シンフォニア》?
- 1969 シュトックハウゼン《クルツヴェレンとベートーヴェン Kurzwellen mit Beethoven、シュトックホーヴェン-ベートハウゼン 作品 1970 Stockhoven-Beethausen Opus 1970》[短波音源、引用]
- 1969-70 マウリシオ・カーゲル:《ルートヴィヒ・ヴァン Ludwig van》[引用、パロディー]
- 1971 スタンリー・キューブリック:『時計仕掛けのオレンジ』(映画)
- 1972 ティペット:交響曲第3番[第9の楽観的世界観の否定、パロディー]
- 1987 ヘルムート・ラッヘンマン:《Staub》[引喩]
- 1991 マイケル・ジャクソン:〈Will You Be There〉(《Dangerous》)
[ジョージ・セル指揮、クリーヴランド管弦楽団の録音を使用]
- 1997 ヘンツェ:交響曲第9番[アンナ・ゼーガース『第7の十字架』、合唱]
- 2004 松下功:交響曲《合掌》[声明付]

参考文献(抄)

作品目録

- Kinsky, Georg (completed & ed. Hans Halm), *Das Werk Beethovens. Thematisch-bibliographisches Verzeichnis seiner sämtlichen vollendeten Kompositionen*, München: Henle, 1955.
- Dorf Müller, Kurt (ed.), *Beiträge zur Beethoven-Bibliographie. Studien und Materialien zum Werkverzeichnis von Kinsky-Halm*, München: Henle, 1978.

ドキュメント

- Forbes, Elliot, *Thayer's Life of Beethoven*, Princeton: Princeton Univ. Press, 1964, 2/1967.
- Brandenburg, Sieghard (ed.), *Ludwig van Beethoven. Briefwechsel. Gesamtausgabe*, München: Henle, 1996-98.
- Köhler, Karl-Heinz etc. (ed.), *Ludwig van Beethovens Konversationshefte*, 10 vols., Leipzig: Deutscher Verlag für Musik, 1968-1993.

楽譜資料

- Nottebohm, Gustav, "Skizzen zur neunten Symphonie," in *Musikalisches Wochenblatt* 7 (Leipzig: Fritsch, 1876), 169-171, 185-188, 213-215, 225-228, 241-144; in Eusebius Mandyczewsky (ed.), *Zweite Beethoveniana: Nachgelassene Aufsätze* (Leipzig: Rieter-Biedermann, 1887; Reprint, New York: 1970), 157-192.
- Winter, Robert, "The Sketches for the 'Ode to Joy'," in Robert Winter & Bruce Car (eds.), *Beethoven, Performers, and Critics* (Detroit: Wayne State Univ. Press, 1980), 176-214.
- Brandenburg, Sieghard, "Die Skizzen zur Neunten Symphonie," in Harry Goldschmidt (ed.), *Zu Beethoven 2: Aufsätze und Dokumente* (Berlin: Verlag Neue Musik Berlin, 1984), 88-129.
- Johnson, Douglas, Alan Tyson, & Robert Winter, *The Beethoven Sketchbooks: History, Reconstruction, Inventory*, Berkeley & Los Angeles: Univ. of California Press, 1985.
- Marston, Nicholas, "Beethoven's 'Anti-Organicism'? The Origins of the Slow Movement of the Ninth Symphony," in *Studies in the History of Music 3: The Creative Process* (New York: Broude Brothers, 1992), 169-200.
- Ludwig van Beethoven, Symphonie Nr. 9 in d-moll, op.125, Urtext, Critical Commentary*, ed. by Jonathan Del Mar, Kassel etc.: Bärenreiter, 1996.
- Staatsbibliothek zu Berlin - Preußischer Kulturbesitz, *Beethoven Digital* <<http://beethoven.staatsbibliothek-berlin.de/>>

第9概説

- Ludwig van Beethoven, Sinfonie Nr. 9 d-Moll, op. 125*, introduction & analysis by Dieter Rexroth, Mainz: Goldmann- Schott, 1979; 2/1988.
- Levy, David B., *Beethoven: The Ninth Symphony*, New York: Schirmer; London: Prentice-Hall International, 1995.
- Cook, Nicholas, *Beethoven: Symphony No. 9*, Cambridge: Cambridge Univ. Press, 1993.

歌詞

Parsons, James, *Ode to the Ninth: The Poetic and Musical Tradition Behind the Finale of Beethoven's "Choral symphony"*, PhD Diss., Univ. of North Texas, 1992.

作品史

土田英三郎 「 2つの交響曲 再考 ベートーヴェン第9交響曲作品史の一断面 」, 『転換期の音楽 新世紀の音楽学フォーラム』(音楽之友社, 2002), 193-206.

他の作品との関係

Kinderman, William, "Beethoven's Symbol for the Deity in the Missa Solemnis and the Ninth Symphony, " in *19th-Century Music* 9/2 (fall 1985), 102-118.

初演

Kojima, Shin Augustinus, "Die Uraufführung der Neunten Sinfonie Beethovens. Einige neue Tatsachen," in *Bericht über den Internationalen Musikwissenschaftlichen Kongress Bayreuth 1981* (Kassel: Bärenreiter, 1984), 390-398; 児島新 『ベートーヴェン研究』, 春秋社, 1985; 『ベートーヴェン全集』第10巻, 講談社, 2000.

Levy, David, *Early Performances of Beethoven's Ninth Symphony: A Documentary Study of Five Cities*, Ph.Diss., Eastman School of Music, Rochester, 1980.

Biba, Otto, "Zur Uraufführung von Beethovens 9. Symphonie," in *Münchener Beethoven-Studien* (München/Salzburg: Katzschler, 1992), 57-69.

批評

Kunze, Stefan (ed.), *Ludwig van Beethoven. Die Werke im Spiegel seiner Zeit. Gesammelte Konzertberichte und Rezensionen bis 1830*, Laaber: Laaber Verlag, 1987.

Senner, Wayne M. etc. (eds.), *The Critical Reception of Beethoven's Compositions by His German Contemporaries*, Lincoln/London: Univ. of Nebraska Press, 1999-.

受容史・作用史

Taruskin, Richard, "Resisting the Ninth," in *19th-Century Music* 12/3 (spring, 1989), 241-256.

Eichhorn, Andreas, *Beethovens neunte Symphonie: Die Geschichte ihrer Aufführung und Rezeption*, PhD Diss. Freie Univ., Berlin, 1992; Kassel: Bärenreiter, 1993.

Kross, Siegfried (ed.), *Probleme der symphonischen Tradition im 19. Jahrhundert* (Musikwissenschaftliches Seminar der Univ. Bonn), Tutzing: Schneider, 1990.

Bonds, Mark Evan, *After Beethoven: Imperatives of Originality in the Symphony*, Cambridge, MA: Harvard Univ. Press, 1996.

ヴァーグナー

Kropfinger, Klaus, *Wagner und Beethoven: Untersuchung zur Beethoven-Rezeption Richard Wagners*, Regensburg: Bosse, 1975.

ブラームス

Brinkmann, Reinhold, *Johannes Brahms: Die Zweite Symphonie: Späte Idylle*, München: Edition Text + Kritik, 1990; *Late Idyll: The Second Symphony of Johannes Brahms*, translated by Peter Palmer, Cambridge, MA: Harvard Univ. Press, 1995.

Bonds 1996 (受容史・作用史参照)

Brodbeck, David, *Brahms: Symphony No.1*, Cambridge: Cambridge Univ. Press, 1997.

ブルックナー

Nowak, Leopold, "Metrische Studien von Anton Bruckner an Beethovens III. und IX. Symphonie," in *Beethoven-Studien. Festgabe der Österreichischen Akademie der Wissenschaften zum 200. Geburtstag von Ludwig van Beethoven* (Wien: Böhlau, 1970), 361-371; in Leopold Nowak, *Über Anton Bruckner. Gesammelte Aufsätze 1936-1984* (Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag, 1985), 105-115.

演奏史

Eichhorn 1992 (受容史・作用史参照)

Levy, David B., "The Contrabass Recitative in Beethoven's Ninth Symphony Revisited," in *Historical performance: The Journal of Early Music America* 5/1 (spring, 1992), 9-18.

Bowen, José Antonio, *The Conductor and the Score: The Relationship between Interpreter and Text in the Generation of Mendelssohn, Berlioz and Wagner*, PhD Diss. Stanford Univ., 1994.

政治史

Buch, Esteban, *La Neuvième de Beethoven. Une histoire politique*, Paris: Gallimard, 1999; *Beethoven's Ninth. A Political History*, translated by Richard Miller, Chicago/London: The Univ. of Chicago Press, 2003.